

数学Ⅱ, B, C 第5問

(1) 受験者の得点 X は平均 116 点, 標準偏差 25 点の正規分布 $N(116, 25^2)$ に従うから,

$$Y = \frac{X-116}{25} \text{ とおくと, } Y \text{ は標準正規分布 } N(0, 1) \text{ に従う。} \quad (\text{ア } ①)$$

よって, 120 点以上である受験者の割合 $P(X \geq 120)$ は, 正規分布表から

$$\begin{aligned} P(X \geq 120) &= P\left(Y \geq \frac{120-116}{25}\right) \\ &= P(Y \geq 0.16) \\ &= 0.5 - P(0 \leq Y \leq 0.16) \\ &= 0.5 - 0.0636 = 0.4364 \\ &\approx 0.44 \quad (\text{イ } ⑤) \end{aligned}$$

(2) (i) 表 1 から, W_i の平均(期待値) $E(W_i)$ は

$$E(W_i) = 0 \cdot (1-p) + 1 \cdot p = p \quad (\text{ウ } ①)$$

また, W_i の分散 $V(W_i)$ は

W_i	0	1	計
確率	$1-p$	p	1

$$\begin{aligned} V(W_i) &= \{0 - E(W_i)\}^2(1-p) + \{1 - E(W_i)\}^2p \\ &= (-p)^2 \cdot (1-p) + (1-p)^2 \cdot p \\ &= p(1-p)\{p + (1-p)\} \\ &= p(1-p) \quad (\text{エ } ③) \end{aligned}$$

(ii) W_1, W_2, \dots, W_n が, 表 1 の確率分布をもつ母集団から抽出した大きさ n の

無作為標本であるとき, 標本平均 $\bar{W} = \frac{W_1 + W_2 + \dots + W_n}{n}$ の期待値 $E(\bar{W})$ と

$$\text{分散 } V(\bar{W}) \text{ は } E(\bar{W}) = p, V(\bar{W}) = \frac{p(1-p)}{n}$$

n が十分に大きいとき, \bar{W} は近似的に正規分布 $N\left(p, \frac{p(1-p)}{n}\right)$ に従う。 $(\text{オ } ⑦)$

$$\begin{aligned} \text{参考} \quad E(\bar{W}) &= E\left(\frac{W_1 + W_2 + \dots + W_n}{n}\right) = \frac{1}{n}\{E(W_1) + E(W_2) + \dots + E(W_n)\} \\ &= \frac{1}{n} \cdot n p = p, \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} V(\bar{W}) &= V\left(\frac{W_1 + W_2 + \dots + W_n}{n}\right) = \frac{1}{n^2}\{V(W_1) + V(W_2) + \dots + V(W_n)\} \\ &= \frac{1}{n^2} \cdot n p(1-p) = \frac{p(1-p)}{n} \end{aligned}$$

この \bar{W} の確率分布を利用して, p が 0.4 より高いといえるかを, 有意水準 5 % (0.05) で仮説検定を行い検証する。

$p \geq 0.4$ を前提とし, 帰無仮説を「 $p=0.4$ 」, 対立仮説を「 $p>0.4$ 」として考える。

帰無仮説「 $p=0.4$ 」が正しいと仮定すると, 標本の大きさ 400 は十分に大きいから,

標本平均 \bar{W} は近似的に平均が 0.4, 標準偏差が $\sqrt{\frac{0.4 \times 0.6}{400}} = \frac{\sqrt{6}}{100}$ の正規分布に

従う。 $(\text{カ } ②)$

よって、 $Z = \frac{\overline{W} - 0.4}{\frac{\sqrt{6}}{100}} = \frac{100\overline{W} - 40}{\sqrt{6}}$ とおくと、確率変数 Z は近似的に標準正規分布

$N(0, 1)$ に従うから、 $\sqrt{6} = 2.45$ を用いると、正規分布表より

$$\begin{aligned} P\left(\overline{W} \geq \frac{184}{400}\right) &= P(\overline{W} \geq 0.46) = P\left(Z \geq \frac{100 \times 0.46 - 40}{\sqrt{6}}\right) \\ &= P(Z \geq \sqrt{6}) = P(Z \geq 2.45) \\ &= 0.5 - P(0 \leq Z \leq 2.45) \\ &= 0.5 - 0.4929 = 0.0071 \quad (\text{②}) \end{aligned}$$

この値をパーセント表示すると 0.71 % であり、これは有意水準 5 % より小さいから、帰無仮説は棄却される。 (ク ①)

したがって、有意水準 5 % で A 地域における今年の資格試験の合格率は 0.4 より高いと判断できる。 (ケ ①)

- (3) (2) の (ii) と同じ帰無仮説と対立仮説に対して、有意水準 5 % で帰無仮説が棄却されるかどうかを調べる。

帰無仮説「 $p=0.4$ 」が正しいと仮定すると、標本の大きさ 100 は十分に大きいから、

(2) の (ii) と同様に、 \overline{W} は近似的に平均が 0.4、標準偏差が $\sqrt{\frac{0.4 \times 0.6}{100}} = \frac{\sqrt{6}}{50}$ の正規分布に従う。

よって、 $Z' = \frac{\overline{W} - 0.4}{\frac{\sqrt{6}}{50}} = \frac{50\overline{W} - 20}{\sqrt{6}}$ とおくと、確率変数 Z' は近似的に標準正規分布

$N(0, 1)$ に従うから、 $\sqrt{6} = 2.45$ を用いると

$$\begin{aligned} P\left(\overline{W} \geq \frac{46}{100}\right) &= P(\overline{W} \geq 0.46) = P\left(Z' \geq \frac{50 \times 0.46 - 20}{\sqrt{6}}\right) \\ &= P\left(Z' \geq \frac{\sqrt{6}}{2}\right) = P(Z' \geq 1.225) \\ &= 0.5 - P(0 \leq Z' \leq 1.225) \end{aligned}$$

正規分布表より、 $P(0 \leq Z' \leq 1.22) = 0.3888$ 、 $P(0 \leq Z' \leq 1.23) = 0.3907$ であるから

$$0.5 - 0.3907 \leq 0.5 - P(0 \leq Z' \leq 1.225) \leq 0.5 - 0.3888$$

$$\text{すなわち } 0.1093 \leq P\left(\overline{W} \geq \frac{46}{100}\right) \leq 0.1112$$

よって、 $P\left(\overline{W} \geq \frac{46}{100}\right)$ の値をパーセント表示すると約 11 % であり、これは有意水準 5 % より大きいから、帰無仮説は棄却されない。 (コ ①, サ ①)